

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福岡県 須恵町

自治体名：福岡県須恵町

担当課名：教育委員会 学校教育課

電話番号：092-932-1151

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	16.33 km ²
人口	29,290 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	989 人
部活動数	22 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	須恵町部活動の地域移行に関する検討委員会 【令和4年12月設置】
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	推進計画策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【取組の進捗や現状】

令和4年度の須恵町部活動地域移行検討委員会を立ち上げ、令和5年度に年間5回の協議を行った。

令和6年度に入り、モデル事業を3つの部活動で実施し、検証を行った。

【地域事情】

3万人弱の自治体であり、財政基盤は十分ではなく、地域移行に係る予算獲得に困難が予想される。運営主体となりうる関係団体はなく、

行政主導での運営団体を立ち上げるか、民間委託の2択であるが、現実問題として、予算（委託費）の関係もあり、運営団体（NPO法人）の立ち上げの方向性が強い。また、須恵町には、従前から文化・スポーツ団体が活動しており、地域移行に対する協力は約70%の団体が、条件によっては可能という調査結果を得ている。また、須恵町において部活動を支援する外部指導者制度があり、薄謝での指導制度が整っている。

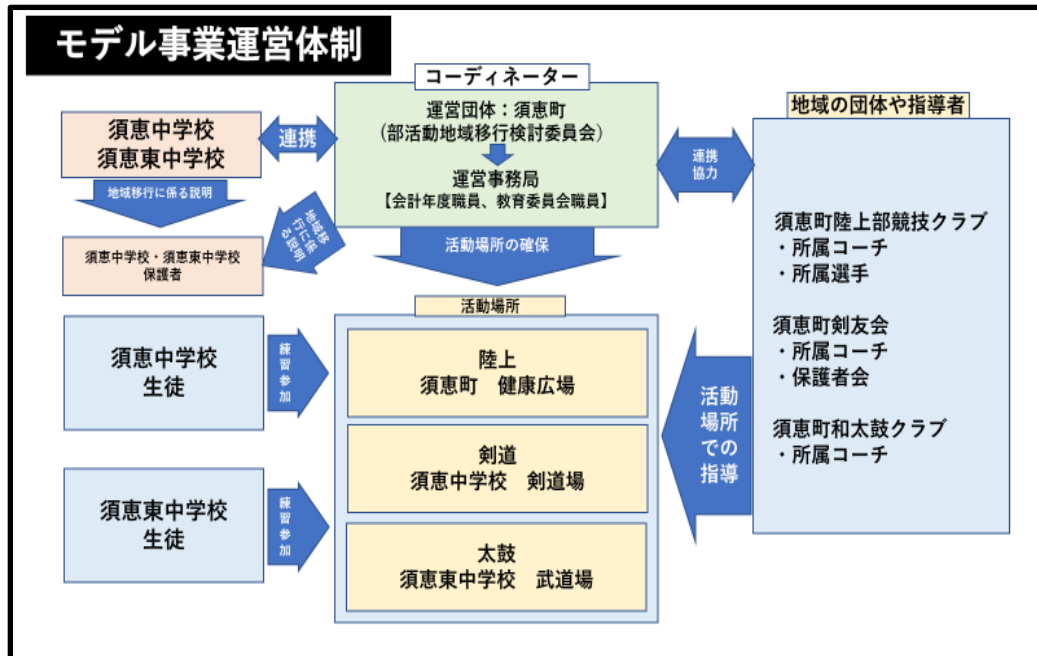


人口変化	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年
総数	24,125	25,086	25,601	26,044	27,263	28,628	29,792	29,414	29,792	29,956	29,989
男性	11,682	12,170	12,383	12,499	13,144	13,760	14,320	13,371	14,320	14,397	14,413
女性	12,443	12,916	13,218	13,545	14,119	14,868	15,472	15,276	15,472	15,559	15,576

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

学校教育課…部活動地域移行に関する主務。学校との連絡・調整。関係団体との連絡調整。

社会教育課…予算確保、指導者に対する謝金等支払業務。

◎首長部局

財政課…予算措置。

年間の事業スケジュール

モデル事業推進に係る会議等実績					
月	日	曜	対象	会議名	出席者
7	4	木	陸上部	第1回地域指導者説明会	事務局、地域指導者
	10	水	陸上部	第2回地域指導者説明会	事務局、地域指導者
	17	水	陸上部	第3回地域指導者説明会	事務局、地域指導者
8	7	水	陸上部	第4回地域指導者説明会	事務局、地域指導者
9	27	金	剣道部	第1回地域指導者説明会	事務局、地域指導者
	28	土	太鼓部	第1回地域指導者説明会	事務局、地域指導者、顧問
	30	月	剣道部	第1回地域指導者説明会	事務局、地域指導者
10	9	水	陸上・剣道	顧問教師説明会	事務局、顧問
	19	土	太鼓部	顧問教師説明会	事務局、地域指導者、顧問
	25	金	陸上・剣道・太鼓	関係者確認会	事務局、地域指導者、顧問
11	6	土	陸上、太鼓	保護者説明会	事務局、地域指導者、顧問、保護者
	12	火	剣道部	保護者説明会	事務局、地域指導者、顧問、保護者

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	3 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ
	B：部活動にはない種目など、新規のクラブ数		0 クラブ
全体の指導者数	13 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

中学校名	クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
須恵中学校	剣道クラブ	剣友会	剣道	・平日 1回 ・休日 0回	(火) 17:30～ 19:30	1年8人 2年4人 3年0人	12月～2月 末	4人	4人（内、兼務0人）	0円 /年額 （など）	中体連：部活動 その他：部活動
須恵・須恵東中学校	陸上クラブ	陸上協会	陸上競技	・平日 0回 ・休日 1回	(土) 7:30～ 10:30	1年17人 2年21人 3年0人	12月～2月 末	6 人	6人（内、兼務2人）	0円 /年額 （など）	中体連：部活動 その他：部活動
須恵東中学校	太鼓クラブ	外部指導者	和太鼓	・平日 0回 ・休日 1回	(土) 9:00～ 12:00	1年8人 2年10人 3年0人	12月～2月 末	3 人	3人（内、兼務2人）	0円 /年額 （など）	その他：部活動

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○教育委員会事務局(学校教育課指導主事及び社会教育課職員)がコーディネートを行う。

○指導主事が、コーディネートの主務者となり、関係団体等との連絡調整を行う。

○モデル事業を行うにあたり、方針の策定、スケジュール計画及び調整、説明資料の作成を行う。

○モデル事業に係る関係資料として、活動報告書、勤怠管理簿、謝金支払い関係書類等作成した。

取組の成果

○陸上、剣道、太鼓部でのモデル事業の実施を行った。事前に、①顧問教師に対する趣旨説明②地域指導者に対する趣旨説明③顧問教師及び地域指導者、事務局での確認会議④保護者説明会を実施し、モデル事業の理解と参加の意思確認を行った。

○モデル事業の取組に関しては、部活動地域移行検討委員会にて、随時進捗報告を行っている。

○12月からモデル事業をスタートさせ、2月末までの取組としている。なお、陸上、太鼓は週に1回の土曜日午前中に3時間程度の活動。剣道は、火曜日18時から2時間程度の活動を展開した。

○取組成果の検証のために関係者にアンケート調査を行った。

モデル事業 説明資料

教師説明資料。

須恵町部活動地域移行 モデル事業スケジュール

令和6年9月27日(土)。
須恵町教育委員会。

現在、須恵町部活動地域移行検討委員会では、令和6年度に3つの部活動で地域移行のためにモデル事業を行う予定です。3つの部活動とは、「陸上、剣道、太鼓」の3部です。本事業を進めるにあたり下記スケジュールの通り現在進行中です。

教師の働き方改革もあり、まずは地域の指導者確保に全力を注いでいるところです。先生方が、休日に部活動に関わらない環境を創出し、先生方の部活指導に係る負担感や不安感の軽減について検証することも含んでいます。そのような中でも、ぜひ休日部活に携わりたいとお考えの先生方もおられるかと思えます。その際は、現在検討が進んでいます「須恵町の兼職兼業に係る規則」に則り指導に携わっていただくことも可能となります。

陸上、剣道、太鼓部の先生方には今後、説明や打ち合わせの時間をお取りいただくこととなります。ご理解とご協力をお願いいたします。

モデル事業スケジュール

① 関係団体(剣道、陸上、太鼓)の責任者(会長、部長等)への説明を行い、理解と了承をいただく。
説明後、協力の了承を得られた後に以下の内容を決定する。
・指導の曜日
・指導の時間帯(平日は2時間、休日は3時間以内)
・指導者(日によっては、指導者スケジュール調整が必要)
・指導に係る規約の作成【別紙参照】

② 関係団体から事務局へ結果報告。
・協力の可否。

③ 部活動地域移行検討委員会に報告。
・報告を受け、正式決定。

④ 関係者確認会議。
・モデル部活に関わる関係者の確認を行う。
(部活動顧問教師、関係団体指導者、事務局等)。
・指導者契約関係書類(指導者宣誓書、指導者登録証、指導者解除願)の配布説明及び提出。

⑤ モデル部活動関係者説明会。
・活動を希望する生徒及び保護者、部活動顧問、関係団体指導者、事務局。
・入会申込書の配布・説明(後日提出)。

⑥ 活動開始と終了。
令和6年10月15日(火)以降～令和7年3月末。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【指導主事が担うコーディネート】

①モデル事業に係る、企画・立案 ②関係者説明会等開催による趣旨説明と合意形成を行った ③実施主体(地域指導者)及び部活動顧問との連絡調整を対面、電話、LINE等で実施した。 ④月に1回のペースで活動状況を把握するために巡回視察を行った。

今後の課題と対応方針

○モデル事業アンケートの集計分析から、多くの課題が出てきているので令和7年度一年間かけて、改善策を検討し、8年度からの休日地域移行完全実施に向けて取組を進める。

○運営主体及びそこに属するコーディネーターの配置を進める。そのため行政サイドでの予算の確保等を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

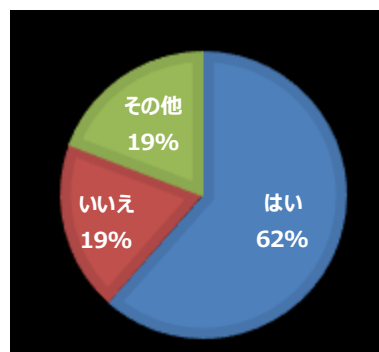
●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○実施主体(地域指導者)に関しては、スポーツ協会等に所属する個人及び団体に対し、令和5年度から説明会等開催し、協力要請を行った。

○研修会(みんなのスポーツ研修会)の最後にアンケート調査を実施し、協力者リストを作成した。

協力者調査



令和5年度
みんなの
スポーツ
研修会

取組の成果

○研修会時のアンケート調査から、研修参加者50名のうち、35名から回答が得られた。内訳は、スポーツ団体の指導者71%、教員9%、保護者6%、文化団体指導者3%、その他11%であった。その中の62%が協力可能な回答であった。協力の内容は、右図に示すとおりである。

○令和6年度のモデル事業の取り組みは、この団体の中から比較的協力に対して理解がある団体等に交渉を行い、モデル事業を開催することができた。これは、社会教育課が、従前からスポーツを通したまちづくりで築き上げた人材によるところが大きい。

協力に関する回答（みんなのスポーツ研修会） 2/15

種目	団体名	協力できる？	どのような協力？	可能な曜日	時間帯	自由意見 検討会議に外部指導者も参加させては？
陸上		はい	指導者	毎日	部活時間	
陸上		はい	運営、技術指導補佐	火・水・金・土・日	平日18:00~21:00 土日AM	
陸上		はい	土日の指導	土・日	7:30~10:00	
陸上		はい	競技面。裏方サポート	土	9:00~12:00 (PMも可)	
野球		はい	指導者	平日	18:00~20:00	
野球		はい	合同練習	火・水・金・土・日	平日17:30~19:30 土日 終日	
野球		はい	太鼓、琴、お茶etc			
文化		はい	できるだけ参加	土・日	半日なら可能	
バレー		はい	ジュニアと合同練習、進学アシスト	毎日	17:00~22:00	町内以外の子どもも受け入れてほしい 送迎してもらえない子のためバスの運行
バスケ		はい	練習環境の提供、指導	水・木・土	18:00~21:00	
バスケ		はい	可能な時間の指導	火・水・木・土	18:00~	
卓球		はい		火・金・土・日	平日19:00~21:00 土日要調整	
柔道		はい	技術指導、人間形成手助け	火・金・土・日	14:00以降	
柔道		はい	現行通り	土・日	7:30~17:00	
サッカー		はい		毎日	水士17:30まで 他は要協議	中学校に行くことも可能
空手		はい				

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

みんなのスポーツ研修会

令和6年度みんなのスポーツ研修会1日目【実施報告】

スポーツジュニアのための食事と栄養～スポーツで強いカラダへ～

日時：令和6年2月6日（木） 19:30～21:00

場所：アザレアホール3階大会議室

講師：株式会社明治 和田 緑 氏

【参加者数】 合計34名（スポーツ推進委員及び事務局10名除く）

内訳）中学校部活外部指導者10名、ジュニアスポーツ指導者14名、保護者2名、教員1名
外部指導・ジュニア指導2名、ジュニア指導・保護者1名、その他4名

【講義の様子】



【アンケート】 回答28件 詳細は別紙参照

○とても参考になった・・・18名 ○参考になった・・・9名 ○どちらとも言えない・・・1名

【考察】

内容）

アンケートの結果からみても、おおむね参加者には満足いただける内容だった。

自由記述の欄では、「栄養の重要性と食事のタイミングの重要性が理解できた」や「食事とスポーツとの関係性を再認識できた」との意見が多かった。

指導者として技術の指導に意識が傾きがちだが、「指導」というものを幅広い視点から考える良い機会になったと思われる。

「栄養」や「食事」に関する内容は、数年に1度開催する需要はあると感じた。

反対に、「もう少し深く専門的な内容の話が聞きたい」や「目新しさが無かった」との意見もあったが、参加者は、中学校部活外部指導者やジュニアスポーツ指導者が約7割を占めているため、取り組みやすい内容を取り上げることも重要と考える。1時間30分の時間を有効に使い、身近な内容と踏み込んだ内容に分けて講義いただく必要がある。

反省）

「スクリーンの文字が小さい」との意見があった。どなたにもわかりやすい資料と会場の準備を行うことは必須なので、開始前に最終確認を確実に行う。

令和6年度みんなのスポーツ研修会2日目【実施報告】

練習前後に行いたいストレッチとコンディショニングについて

日時：令和7年2月14日（金） 19:30～21:00

場所：アザレアホール3階大会議室

講師：有限会社 FSCC 片井 忠 氏

【参加者数】 合計37名（スポーツ推進委員及び事務局11名除く）

内訳）中学校部活外部指導者11名、ジュニアスポーツ指導者20名、保護者1名、その他5名

【講義の様子】



【アンケート】 回答32件 詳細は別紙参照

○とても参考になった・・・27名 ○参考になった・・・5名

【考察】

内容）

アンケートの結果からみても、おおむね参加者には満足いただける内容だった。

近年は、YouTube による配信を行っていたが、今回は集合形式で実技を実施した。

参加者からは、「実技を通して実際に体験できてよかった」や「身をもって体験できてより理解できた」という意見が複数見られ、YouTube 配信では感じにくい部分を参加者が体験できたと思う。

一方で、3講座のうち1回は配信形式を望む声もあったので、毎年片井先生と相談し、内容によっては形式を検討が必要。（片井先生以外の講座を動画配信にすることも含めて）

今回の研修会は上半身の内容がほとんどだったので、参加者からは「次回は下半身やほかの部位についての内容を受講したい」との要望が出たため、次年度以降の検討材料とする。

反省）

今回の参加人数で実技を行って会場全体を使用した。後方にはもう少しゆとりを持って準備を行う必要があった。

3回シリーズの研修会であるが、あと1回の開催を予定している

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化①

取組事項

○関係団体（スポーツ協会、文化協会、スポーツ推進委員の会、中学校PTA、小・中学校長、社会教育委員の会）との連携を図っている。連携にあつては、部活動地域移行検討委員会組織メンバーとして参画いただいている。
必要に応じて、各々の関係団体等には意図的・計画的に説明を行っている。

取組の成果

○スポーツ関係団体には、「みんなのスポーツ研修会」での説明を通して、協力体制の構築につながっている。

○文化協会等関係者にも同様に、文化協会役員会で説明を行い、理解を得ている。

○教職員に対しては、町内で開催する夏季全員研修会で小中学校教職員を対象とした研修会で説明を行い、理解促進に努めている。(右資料)

今後の課題と対応方針

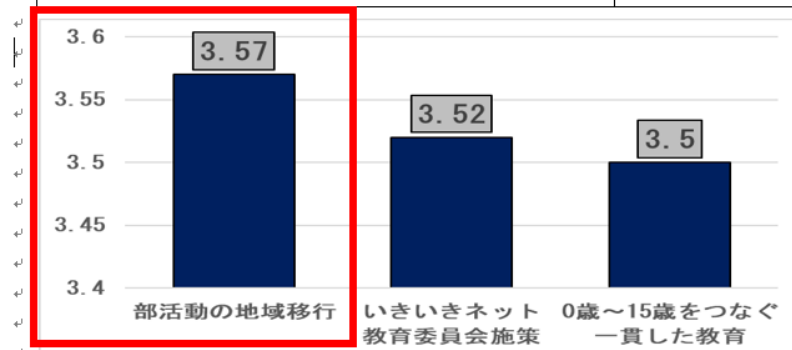
○教職員の理解度には個人差がある。学校長が中心となり職員会議等での丁寧な説明が必要である。学校が2校のために学校間での格差もあることは現実である。今後令和7年度に向け、校長の積極的参画と理解に基づいた職員への丁寧な説明が必要である。

夏季全員研修会アンケート結果

1 いきいきネット須恵 夏季全員研修会 アンケート結果（8月1日実施）

（1）質問事項について（回答者210名、参加者243名）

質問事項	4段階評価
(1) 「部活動地域移行」の説明はわかりましたか？	3.57
(2) 「いきいきネット須恵」の取組評価及び「須恵町教育委員会施策」の説明はわかりましたか？	3.52
(3) 園・小中学校の実践発表を聞いて、0歳から15歳までをつなぐ一貫した教育の充実に向けて、切れ目のない保育・教育活動の推進を図ることはできますか？	3.50



（2）研修会の感想やお気づきの点や質問等

【部活動の地域移行】

- 部活動地域移行に向けた詳細な情報提供が大変分かりやすく、興味深かったです。
- 部活動の地域移行については、様々な問題がある中で進めていただいていることがわかりました。
- 部活動の地域移行の取組など、子どもたち、保護者、教員それぞれがどのような思いを抱いているのが共通理解できてよかったです。
- 部活動における教員の負担軽減がおこなわれることは、3年ほど前に講義で聞いたことがありました。実際に身近で少しずつ実現されていることを実感しました。多くの方の協力が必要であり、地域移行の難しさが伝わりました。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化②

取組事項

○関係団体（スポーツ協会、文化協会、スポーツ推進委員の会、中学校PTA、小・中学校長、社会教育委員の会）との連携を図っている。連携にあつては、部活動地域移行検討委員会組織メンバーとして参画いただいている。必要に応じて、各々の関係団体等には意図的・計画的に説明を行っている。

取組の成果

○保護者に対しては、部活動地域移行に関する説明リーフレットを作成し、小学校5、6年生、中学校全学年の保護者に配布して理解を得ている。併せて生徒には、学校長から説明を行っている。

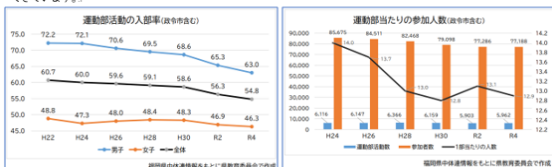
須恵町における部活動地域移行について

須恵町における「部活動の地域移行」の概要について

須恵町教育委員会 学校教育課

1 部活動の地域移行について
令和4年6月6日、運動部活動の地域移行に関する検討会議より、スポーツ庁に対して提言が行われ、中学校運動部活動の地域への移行が示されました。また、8月9日、文化系部活動の地域移行についても、文化庁の有識者会議による提言が示されました。この提言を受け、これまで教員が行っていた休日の部活動を、地域のスポーツ・文化芸術団体との連携や民間事業者の活用等により地域と連携・融合した形で環境整備を進めるための検討が全面的に行われるようになりました。
須恵町でも、令和4年に「須恵町部活動地域移行検討委員会」を立ち上げ、令和5年度から7年度までの3ヶ年を推進期間とし、令和8年度からの休日部活動地域移行を目指し、取り組みを進めています。

2 なぜ部活動の地域移行が必要なのか
少子化による中学校の生徒数の減少（全国中学校生徒数 561:589万人→R3:296万人）や、運動部活動の入部率の低下により、部活動としての存続ができない部活動が増加しています。（運動部活動数、部員数、1部活動当たりの人数、運動部活動の入部率、全て減少しています）。
その結果、行いたい部活動がなくなった生徒や、部員不足により試合や大会に出たくても出られない生徒ができています。



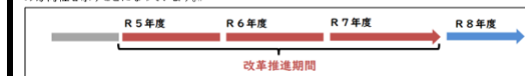
*休日の部活動指導は教員の業務負担が大きく、教員の採用倍率の低下にもつながっています。
*教員が経験のない部の顧問を行う場合もあり、指導力・技術力が充分でないケースもあります。

3 部活動の地域移行により期待される効果（メリット）

- ① 生徒への効果（メリット）
 - ・専門的な知識や技術を有した指導者の指導を受けることができる。
 - ・校内の生徒のみならず、他校の生徒や多世代間での交流を通して人格形成に寄与することができる。
 - ・少子化のため、存続できなくなった活動を継続できる。
- ② 教員への効果（メリット）
 - ・教員が自分の意思で指導に関わることを選択できる。
 - ・兼職兼業で従事することにより対価を受けながら自己の専門性を生かすことができる。
 - ・将来的にすべての学校部活動が地域へ移行すれば、学校全体の業務軽減につなげることができる。
- ③ 地域への効果（メリット）
 - ・多世代が交流して活動することができ、新たなコミュニティが生まれる。
 - ・既存の学校施設や地域施設を有効活用することができる。
 - ・地域で育った子供たちが、将来的に地域の指導者として活躍するなどの好循環が期待できる。

4 福岡県が考える運動部活動の地域移行の方向性

まずは、令和5年度から令和7年度までに、休日の学校部活動について段階的に地域移行していくことを基本とし、令和8年度以降については、改革推進期間における進捗状況を検証し、令和7年度中に改めて県としての方向性を示すことになっています。



5 須恵町の取組

令和4年度

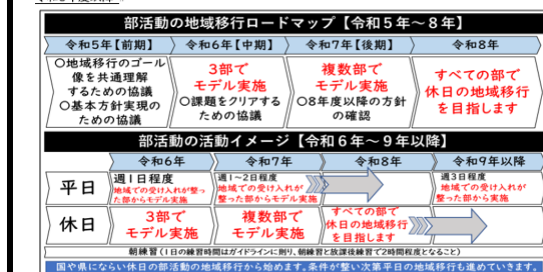
○ 須恵町中学校部活動地域移行に係る検討委員会を設置（令和4年12月20日）。

【方針】

- 方針1 生徒にとって多様な選択肢を提供する
- 方針2 地域とともに生徒を育てる場として位置付ける
- 方針3 持続可能な運営体制を構築する。

○ アンケート調査の実施。

令和5年度以降



《検討事項》

- 活動のための経費について（財源確保及び保護者の費用負担等）。
- 運営に係る組織及び人材確保（コーディネーター、指導者等）。
- 休日の部活動の指導を希望する教員の在り方（兼職兼業の規則改正等）。

今後の課題と対応方針

○保護者への理解促進のためには、学校内で機会をとらえては発信する必要がある。特に教師による部活動指導は無料で受けられるという考え方。今後、会費等の受益者負担等必要になるという事をいかに理解していただくか。またその金額設定にも大きな課題がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○本町は、部活動改革の取組を通して、子供も大人も元気になる地域づくりを目指す。そのため、バーパスの定義を大切にするため、モデル事業関係者に対し、打ち合わせや説明会等を実施し、事業の推進を図った。また、部活動顧問、地域指導者、保護者説明など、合意形成を丁寧に図っていった。

活動の詳細



関係者確認会



保護者説明会

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組事項

○陸上・剣道・太鼓の3部活動でモデル事業を実施した。

○陸上、太鼓は、土曜日午前中の3時間の活動とした。特に陸上は2校の生徒が希望で集まった。短距離・中距離・長距離・跳躍と種目ごとに専門的な指導を受けることができ、中学生の満足はとて高い。

○太鼓では、地域クラブのルールで、連絡を取るための手段として、スマートフォン等の持ち込みを許可しているため、大人の考え方・とらえ方を大きく揺さぶるきっかけとなっている。また、主体性を育むため、平日の練習は生徒が練習内容を考える仕組みを実践している。

活動の詳細



土曜日 7:30~10:30、健康広場
 指導者4名、教師兼職兼業2名



火曜日 17:30~19:30
 須恵中剣道場、指導者4名



土曜日 9:00~12:00、須恵東中武道場
 指導者1名、教師兼職兼業2名

○剣道は、火曜日 17時半からの2時間の活動とした。指導者は、地域剣道の剣友会から4名。火曜日は、剣道顧問教師の部活動の休日となっている。

○モデル事業は12月から2月末までの3か月の取り組みを行った。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組（財源に係る取組）

取組事項

○部活動地域移行を進めるにあたり財源確保は最重要課題と考えている。これまで部活動においては実質無料であったが、今後地域クラブになる時には受益者負担は必要である。その負担額に関しては本町においては様々なケースで試算を繰り返してきた。事務局サイドで保護者負担金の見込みの積算を紹介する。

また、支出のほとんどが指導に係る謝金等である。今回の積算では1,300円の時給として積算を行った。

今後事業の進捗に伴い随時見直しは必要である。

○アンケート調査から、**休日の地域クラブへの参加期待率は24%であり、負担金を2,000円とした場合は、3,784,320円。3,000円とした場合は、5,676,480円となる。**

○指導謝金は、1,300円とし、休日すべての部活動が地域移行した場合の謝金総額は、**6,739,200円となる。**

保護者負担金シュミレーション

部活動地域移行に係る保護者負担金【積算シート】					
令和6年8月13日					
部活動名	合計人数	2000円負担		3,000円負担	
		受益者負担金/月	受益者負担金/年	受益者負担金/月	受益者負担金/年
野球	29	58,000	696,000	87,000	1,044,000
サッカー	48	96,000	1,152,000	144,000	1,728,000
陸上	66	132,000	1,584,000	198,000	2,376,000
女子ソフトテニス	31	62,000	744,000	93,000	1,116,000
水泳	28	56,000	672,000	84,000	1,008,000
男子バスケ	42	84,000	1,008,000	126,000	1,512,000
女子バスケ	28	56,000	672,000	84,000	1,008,000
男子バレー	17	34,000	408,000	51,000	612,000
女子バレー	34	68,000	816,000	102,000	1,224,000
卓球	53	106,000	1,272,000	159,000	1,908,000
男子バド	38	76,000	912,000	114,000	1,368,000
女子バド	32	64,000	768,000	96,000	1,152,000
剣道	20	40,000	480,000	60,000	720,000
柔道	6	12,000	144,000	18,000	216,000
剣道	38	76,000	912,000	114,000	1,368,000
合計	510	1,020,000	12,240,000	1,530,000	18,360,000

文化部					
部活動名	合計人数	2000円負担		3,000円負担	
		受益者負担金/月	受益者負担金/年	受益者負担金/月	受益者負担金/年
吹奏楽部	43	86,000	1,032,000	129,000	1,548,000
美術部	70	140,000	1,680,000	210,000	2,520,000
太鼓部	34	68,000	816,000	102,000	1,224,000
合計	147	294,000	3,528,000	441,000	5,292,000

生徒の参加率による、負担金収入額				
参加率	負担金 2,000円		負担金 3,000円	
	年間負担金	年間負担金	年間負担金	年間負担金
100%	1,314,000	15,768,000	1,971,000	23,652,000
70%	919,800	11,037,600	1,379,700	16,556,400
50%	657,000	7,884,000	985,500	11,826,000
30%	394,200	4,730,400	591,300	7,095,600
24%	315,360	3,784,320	473,040	5,676,480

【生徒の参加率による負担金収入見込み】

令和6年度の部活動参加人数は、657人。参加率は、全校生徒の67%である。
生徒の地域クラブ参加率見込みは、休日に移行した場合の参加見込み
アンケート調査の結果から：休日の部活動参加に対する意識では、ぜひ参加したい11%、どちらかといえば参加したい13%。あまり参加したくない36%、参加しない40%。
以上のことから参加期待率は24%となる。
年間負担金収入予想は、
2,000円の場合：3,784,320円
3,000円の場合：5,676,480円

指導謝金シュミレーション

部活動地域移行 指導に係る謝金【積算シート】							
						令和6年8月13日作成	
休日指導 【1日】	単価	3時間/ 1回	1日/週	4回/月	12か 月/年	合計金額/1人	36人
	1,300	3	1	4	12	187,200	6,739,200
休日（土日のいずれか）に1日指導を行う。1時間謝金は、1,300円に設定する。なお、1回の指導は3時間以内とする。1か月に4週の活動となり、4回の指導を行う。1年間12か月の活動となる。 以上のことから、一人当たり187,200円となり、指導者が36名と仮定した場合は、6,739,200円の謝金を準備する必要がある。							
平日指導 【4日】	単価	2時間/ 1回	3日/週	12回/ 月	12か 月/年	合計金額/1人	36人
	1,300	2	4	12	12	1,497,600	53,913,600
将来、平日の地域移行が進んだ場合。4日間の指導を行うとした場合、1時間謝金単価を1,300円と設定する。なお、1回の指導は2時間以内とする。1か月に4週間の活動となり、12回の指導を行う。1年間の活動の場合、一人当たり1,497,600円となる。指導者が36名と仮定した場合は、53,913,600円の謝金の準備をする必要がある。							
土日、平日 指導 【5日間】	一人当たりの年間謝金額			指導者数分の 年間謝金額【36人】			
	1,684,800			60,652,800			
休日平日併せて、5日間指導する場合は、一人当たりの年間の謝金は、1,684,800円。部活動数が18部活あるので一部活にに対して2名の指導者を見込んだ場合、36名の指導者が必要となり、年間60,652,800円の謝金を準備する必要がある。ただし、謝金の1単位時間を1,300円と仮定している。							
【須恵町の部活動数】							
スポーツ15部【野球、サッカー、陸上、女子ソフトテニス、水泳、男子バスケ、女子バスケ、男子バレー、女子バレー、卓球、男子バドミントン、女子バドミントン、剣道、柔道、なぎなた】							
文化3部【吹奏楽、美術、太鼓】							

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組（保護者負担金に係る取組）

取組事項

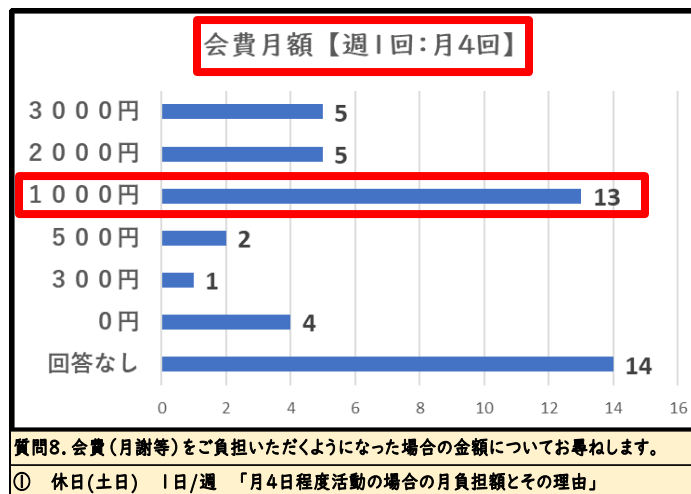
○部活動地域移行を進めるにあたり財源確保は最重要課題と考えている。これまで部活動においては実質無料であったが、今後地域クラブになる時には受益者負担は必要である。今回モデル事業に参加した保護者に受益者の負担に係る金額調査を行った。

○土日に1日、**月に4回の活動**を行う場合、会費としての負担額は、**1,000円**が最も多い。

○平日週に4日間、**月に16回の活動**を行う場合、会費としての負担額は、**3,000円**が最も多い。また、いずれの質問に対しても、わからないことを理由に「回答なし」が最も多かった。

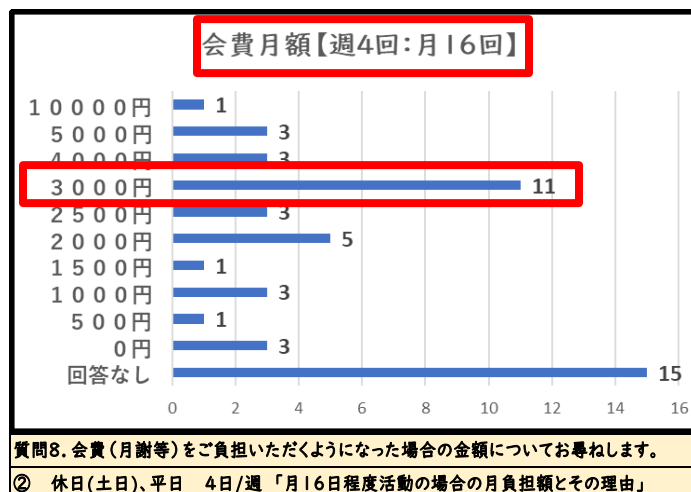
今後の課題と対応方針

○受益者負担に関してはまだまだ、啓発や説明が不足しており、今後、様々な機会をとらえて、丁寧に説明の必要がある。また、保護者を交えての協議の場も必要と考える。



保護者の意見

○よくわかりませんのでお任せします。
○部活と同じ金額ぐらいなら、何も思わずに払える。
○できれば町で負担していただきたい。
○数千円以内 あまり高額だと厳しいです。
○1日換算で500円は安いかもしれませんが、部活にお金をかけてこなかったでこれぐらいと思いました。



保護者の意見

○やってみないとわからない。高くても子供がやりたいと思うのであれば、払うかもしれない。
○クラブチームではなく部活なのでトータルで4,000円ぐらいでお願いしたい。
○他の習い事でも月に3,000円くらいまでならと思った。
○活動時間や内容によっては、金額は変動すると思いますが、安くあって欲しい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組（地域住民に対する広報）

取組事項

○部活動地域移行に関する取組の情報は、これまで関係者や関係団体等には、検討委員会をはじめとする様々な会議や研修会等の機会を通じて発信をしてきた。最後に地域住民に対する情報発信が必要である。そこで令和7年2月に、「広報すえ」で概要の説明を行い、QRコードから「須恵町ホームページ」に案内し、そこで詳細説明を行った。

これらの取り組みを通じて、須恵町全体への広報はひと段落すると考える。



広報 すえ



今後の課題と対応方針

○部活動地域移行を推進するためには、関係者をはじめとして多くの地域住民に、まずは知っていただく。次に関心を持っていただく、支援していただく。支援は、直接支援や間接支援等考えることができる。地域総がかりの体制づくりにつながる事が理想であり、このことが「まちづくり」、「コミュニティの再生・活性化」につながると考える。今後随時、情報を更新することを通して地域へのより一層の理解につなげたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○今回、モデル事業として3つの部活動で検証事業を実施した。モデル事業を実施する際には、いくつかのクリアしなければならないことがあった。そのクリアすべき課題を一つ一つ丁寧に進めることは時間を要するとともに、他者があっての推進のためその連絡や調整など多岐にわたった。

今回のモデル事業推進においては、学校教育課と社会教育課の連携のもとに進めてきたが、主務役としては学校教育課指導主事がコーディネートを行った。核となる人材が、様々な情報収集や先行事例などを集約・分析し、自町の取り組みの参考にし、須恵町スタイルの創設を行ってきた。

3か年計画の中間年にモデル事業を実施し、検証を通して最終年に更なる検証を実施し、令和8年度の休日部活動完全実施に向けて地道で丁寧な取り組みを展開していくものである。

●成果の評価

○部活動地域移行の推進においては、計画通り進めることができています。その中のモデル事業の取り組みは、開始が2か月ほど遅れたが、開始後は順調に進めることができています。

モデル事業関係者に対しては、アンケート調査を実施し一定程度の成果(次ページ)を得ることができたが、課題も提示された。今後來年度を含め課題を一つひとつクリアしていくことが必要である。

●今後に向けて

○次年度は、モデル事業数を増やし検証を進める。

それと同時に以下の課題の解決にあたることとする。

- ①運営主体の確保 ②実施主体の確保 ③保護者及び地域住民への理解促進 ④財源確保 ⑤学校等施設・設備の利活用 ⑥人的管理にアプリ等導入 ⑦須恵クラブ(仮称)の設立

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

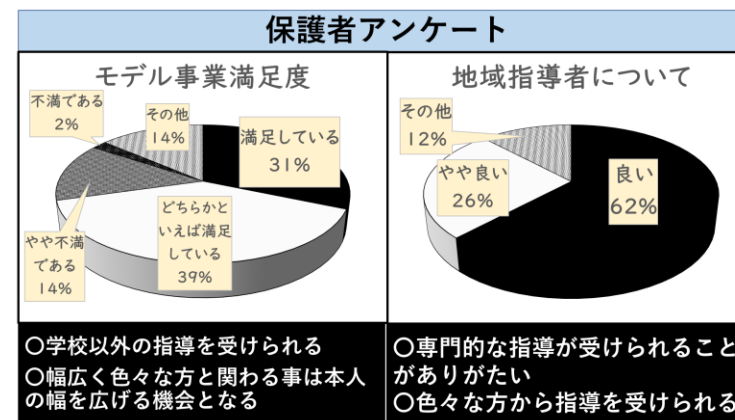
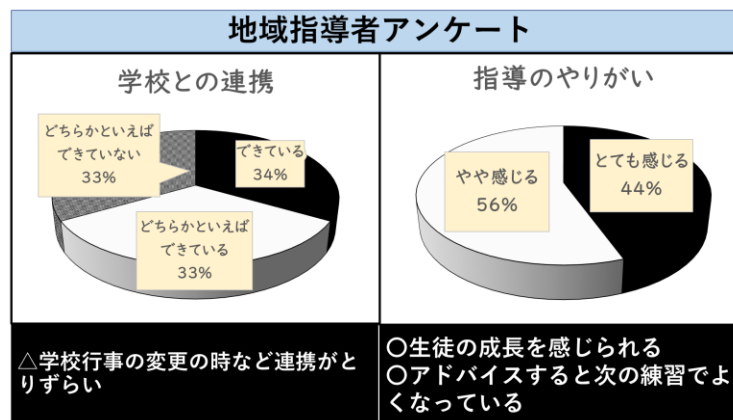
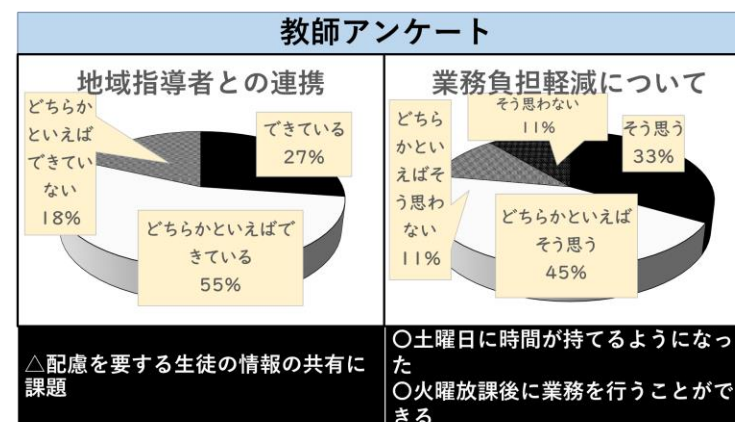
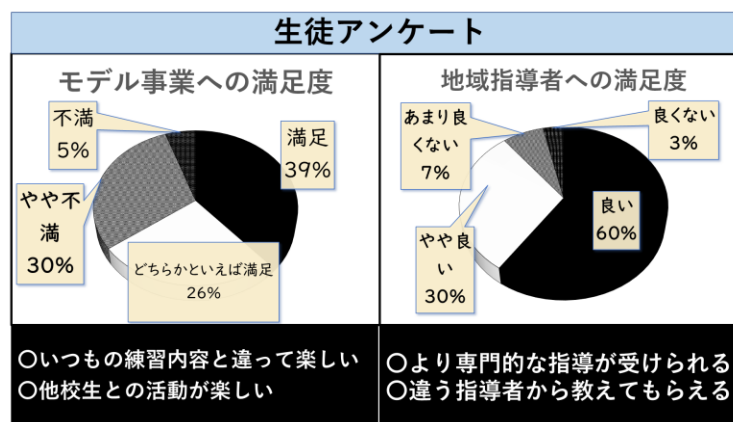
取組事項

○取組の終盤である2月上旬に、モデル事業関係者である【生徒・保護者・地域指導者・顧問教師】に対しアンケート調査を実施。成果と課題の抽出を行っている。

今後の課題と対応方針

○アンケートの結果は、右表に示すように、満足度等に関しては概ね良好である。ただし、今回のモデル事業にあっては、参加人数が少数のため、検証を行うためにはデータ不足が否めない。次年度に向け、モデル事業数を増やし、引き続き検証を行い、改善を進め事業の制度を高めていく。

アンケート調査結果



地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

部活動の地域移行ロードマップ【令和5年～7年】

令和5年【取組前期】

第1回委員会

- ①前年度の確認
- ②ロードマップの説明
- ③地域移行のゴール像のコンセンサスのための協議（方針1方針2）

第2回委員会

- ①第1回委員会の振り返り
- ②事例紹介（辻社会教育主事）
- ③地域移行のゴール像のコンセンサスのための協議（方針3）

第3・4回委員会

- ①第3回委員会の振り返り
- ②協議

最終回委員会

- ①本年度の総括
- ②次年度の確認

令和6年【取組中期】

第1回委員会

- ①前年度の確認
- ②本年度の方針確認

第2～4回委員会

- ①進捗報告
- ②協議

第5回委員会

- ①本年度の総括
- ②次年度の確認

令和7年【取組後期】

第1回委員会

- ①前年度の確認
- ②本年度の方針確認

第2～4回委員会

- ①進捗報告
- ②協議

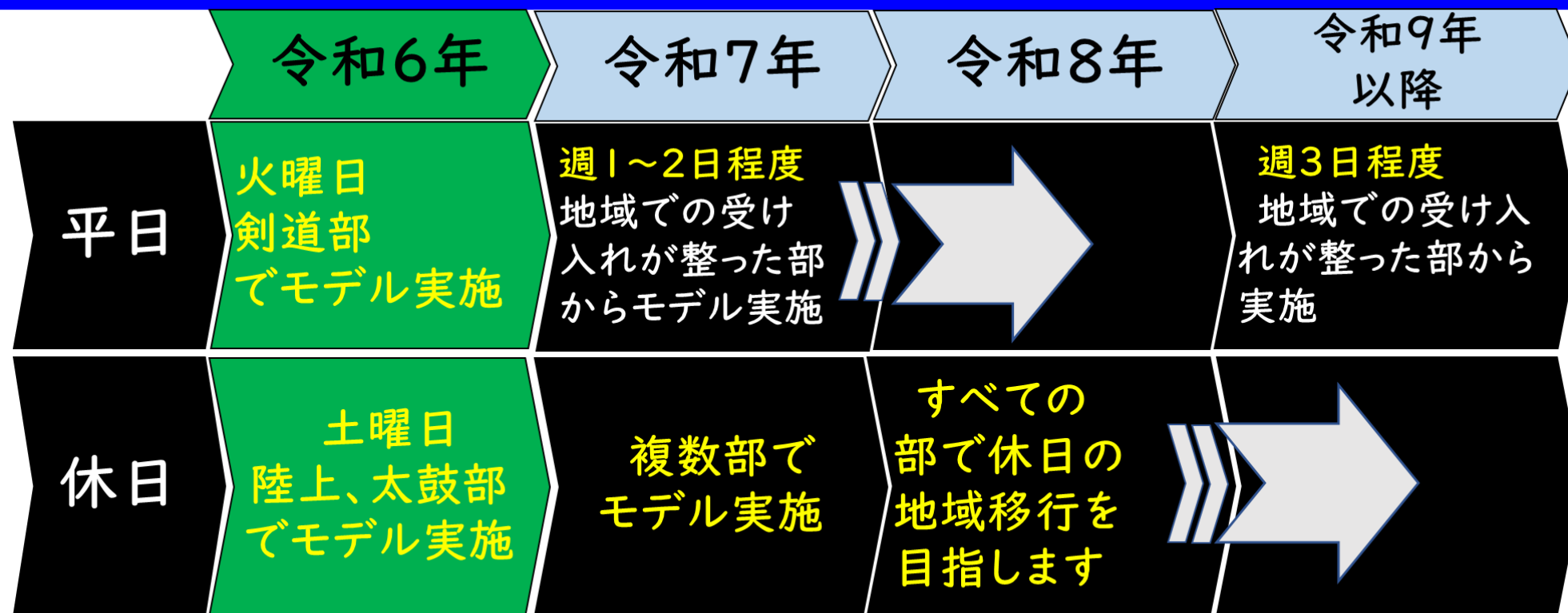
第5回委員会

- ①本年度の総括
- ②次年度の確認

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

部活動の活動イメージ【令和6年～9年以降】【案】



朝練習（1日の練習時間はガイドラインに則り、朝練習と放課後練習で2時間程度となること）

国や県にならない休日の部活動の地域移行から始めます。
条件が整い次第平日の地域移行も進めていきます。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福岡県 久山町

自治体名：福岡県久山町

担当課名：教育課

電話番号：092-976-1111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	37.43km ²
人口	9,410 人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	311 人
部活動数	10 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本町は中学校が1校であり、現在、部活動は、男子バレーボール部、女子バレーボール部、男子ソフトテニス部、女子ソフトテニス部、サッカー部、バドミントン部、剣道部、美術部、吹奏楽部、放送部の10の部が活動している。

本町中学校では、少子化を見越して、部活動数を制限してきたこともあり、部員数の減少について大きな課題は生じていない。

しかし、部活動を担当する顧問が、専門外の競技を指導していたり、部活動指導時間により働き方改革の推進に支障をきたしていたりするという現状がある。

今後、まずは、地域指導者による「休日の指導」を進めていき、教職員の負担を段階的に軽減していきたい。

そのための枠組み作りや地域指導者の確保、地域指導者対象の研修体制の整備、保険の加入、生徒や保護者、地域への説明等を進めていかなければならない。

令和5年度から設置している「久山町部活動地域移行協議会」で協議を重ね、様々な方の意見を参考にしながら取り組んでいきたいと考えている。

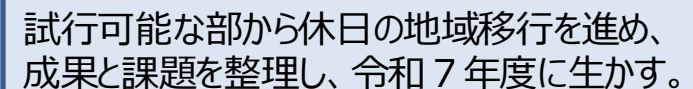
令和6年度 久山町立久山中学校 部活動 部員数及び外部指導者

	1年生	2年生	3年生	合計	外部指導者
男子バレーボール部	9	7	7	23	なし
女子バレーボール部	5	7	11	23	1名(町民1名)
男子ソフトテニス部	11	14	8	33	1名(町民1名)
女子ソフトテニス部	8	10	10	28	1名(町民1名)
サッカー部	9	7	13	29	2名(町民1名)
バドミントン部	10	7	10	27	2名(町民2名)
剣道部	5	1	1	7	5名(町民4名)
吹奏楽部	7	9	9	25	なし
美術部	4	7	11	22	なし
放送部	2	3	1	6	なし

本町中学校は、地域の方による外部指導者がすでに充実しているため、ここを起点に指導者の確保に取り組み、休日指導の地域移行を進めていきたい。

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回部活動地域移行協議会
令和6年6月	第2回部活動地域移行協議会
令和6年7月	第3回部活動地域移行協議会
令和6年10月	第4回部活動地域移行協議会
令和6年10月	試行：地域指導者による指導開始
令和6年11月	第5回部活動地域移行協議会
令和7年2月	第6回部活動地域移行協議会



- ・部活動地域移行に向けた各方針の最終決定
- ・予算決議

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（2 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	3 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
バドミントンクラブ	教育委員会	バドミントン	月 4 回／ 週 1 回	9 時－ 12 時	1 年 10 人 2 年 7 人 3 年 10 人	R6 10 月～	中学校	2 人	2 人	なし	中体連：部活動
剣道クラブ	教育委員会	剣道	月 4 回／ 週 1 回	8 時－ 10 時	1 年 5 人 2 年 1 人 3 年 1 人	R6 10 月～	中学校	1 人	1 人	なし	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

特になし

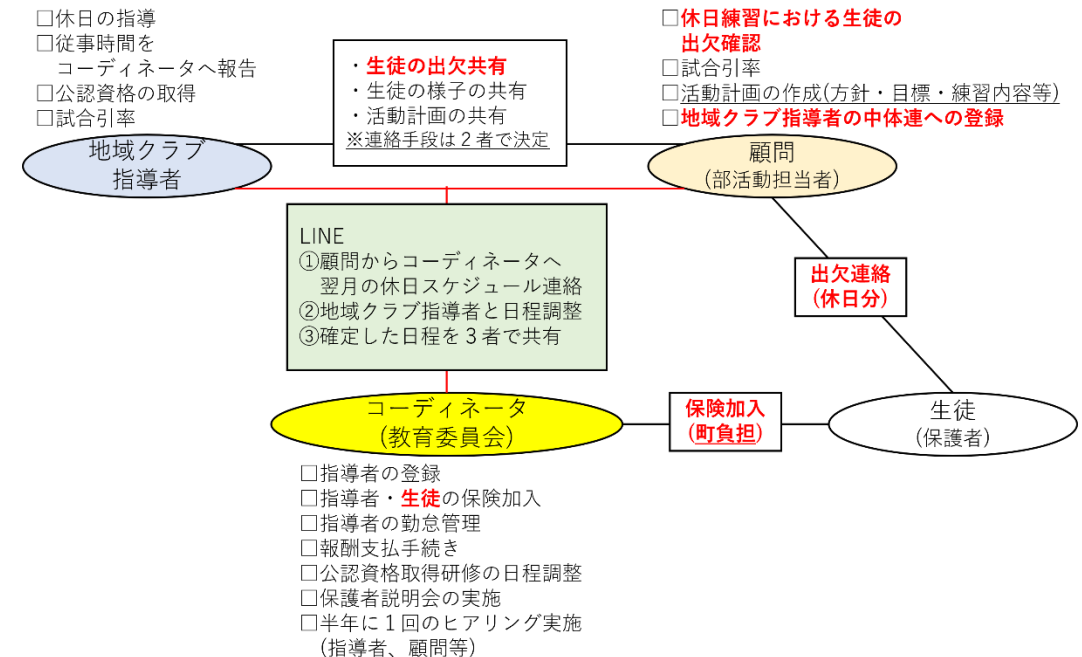
2.実証内容と成果

主な取組例

●バドミントンクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン
運営団体名	久山町教育委員会
期間と日数	バドミントン：10月1日～月4回程度
指導者の主な属性	中学校教員、会社員等
活動場所	久山中学校
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●主の指導者 2名

役割：生徒に対する競技の指導

試合引率

生徒の出欠管理

保護者連絡 等

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

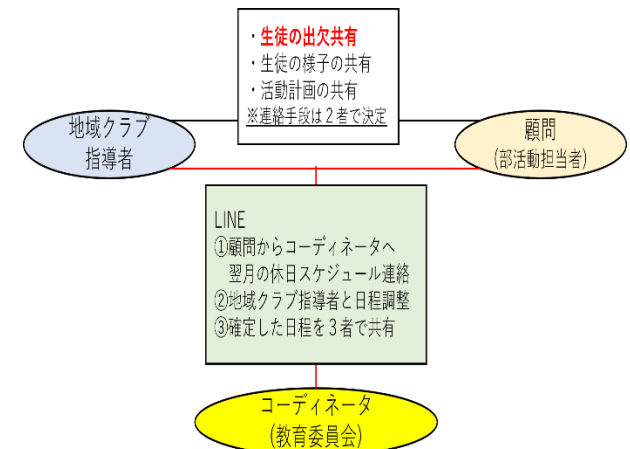
取組事項

令和6年度は、2つの部活動で「休日の地域指導者による指導」を試行した。統括コーディネータを配置予定だったが、試行段階ということもあり、課題等の整理のため、教育委員会が主体となって運営した。県の無料アプリを申請しているが、まだ未運用ということで、LINEを活用して、指導者との連絡調整・勤怠管理を行った。本年度の課題を整理し、次年度に生かしていく。

取組の成果

○部活動地域移行協議会を主催している教育委員会が運営主体を担ったことで、課題の分析やそれをもとにした協議が迅速にでき、解決のための手立てを都度施すことができた。

○教育委員会代表者、地域指導者、顧問でLINEグループを作成し、練習日の確定や報告等を滞りなく実施することができた。（※県の無料アプリの運用環境が整えば、そちらに移行していく。）



連絡・調全体制や役割

コーディネーター（教育委員会）の具体的な動きの実績

- 見通しをもって、翌月の練習日の調整を行うことができ、滞りなく活動を進めることができた。
- 月単位で、どのような調整や相互連絡が必要なのかを整理することができた。

今後の課題と対応方針

令和6年度は試行段階で2つの部活動で地域移行を進めてきた。その中でコーディネータに必要な仕事内容を少しずつ整理することができた。しかし、部が増えていくと、教育委員会だけでは運営が難しいため、コーディネータ人材の募集や確保、同時に、連絡調整のためのアプリ運用の環境を整えていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○現在の外部指導者を中心に、指導者の確保に努める。

○指導者募集のチラシを作成し、広報やホームページ等で募集をかける。

○指導者の資質向上のため、公認資格の取得義務をガイドラインに示す。

地域指導者の人数

5名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	1名
30代	0名
40代	1名
50代	1名
60代以上	2名

登録者属性

職業

- ・中学校教員 1名
- ・会社員 3名
- ・公務員 1名

外部指導者として関わっておられた方に直接声をかけ説明し了承を得た。

種目

- ・バドミントン
 - ・剣道
 - ・サッカー
- ※サッカー部は令和7年度より始動する。

資格有無

- ・サッカー指導者C級
- ・サッカー審判員2級
- ・剣道5段

取組の成果

- ・指導者5名を確保することができた。
- ・2つの部活動で「休日の地域指導者による指導」を試行中
- ・試行の中で指導者が感じた課題等を聴取することができた。
- ・学校との連絡調整の手段や内容を整理することができた。
- ・指導者募集のチラシを作成することができた。
- ・応募のあった指導者を採用するまでのおおまかな流れを構築することができた。

部活動地域移行

地域クラブ指導者

「登録者」募集中

～久山中学校の中学生を指導してみませんか？～

募集種目 久山中学校に設置されている以下の部活動
 ○男子・女子バレーボール部 ○男子・女子ソフトテニス部
 ○バドミントン部 ○剣道部 ○サッカー部 ○吹奏楽部

応募対象者 競技経験や指導経験がある方
 ※公認指導者資格取得のための研修を受講いただきます。(受講費助負担)
 ※休日のみの指導(およそ1回/週)

主な活動内容 該当部活での指導
 ※学校外での活動(大会や練習試合等)の引率等

登録の流れ
 ①登録申込書(久山町教育委員会へ提出)
 (メール、郵送、窓口での受付)
 ②久山町教育委員会、学校にて書類審査
 実施した上で「指導者バンク」へ登録
 ③応募に応じて教育委員会が指導者へ派遣

報酬額
 1時間あたり1,354円
 ※1日上限3時間

ボランティアとしてなら指導に関わりたいという方も大歓迎です！
 ぜひ教育委員会までご相談ください！

詳細は、「久山中学校地域移行推進プロジェクト」をご覧ください！(久山町立中学校教員会、
 地域クラブ活動に関する要綱) (電話：096-949-3111) 先着順となります。

お問い合わせ 〒912-0292 福井県福井市久山町久山4632番地 久山町教育 教育課まで
 メール: edu@city.fukui.lg.jp 電話: 096-949-3111

部活動地域移行に伴う地域クラブ指導者 登録申込書

姓	名
氏名(フリガナ)	
生年月日	
年齢	
性別	
緊急連絡先	
メールアドレス	
指導種目	
経験・指導歴	
指導者資格	
在学年度の有無	有 ・ 無

氏名: _____

年 月 日

※指導者登録費をもちでない場合、指導者としての研修を受講していただくこととなります。
 ※スポーツ保険は、久山町教育委員会が加入し、保険料を負担いたします。

指導者募集チラシ(左)と指導者登録用紙(右)

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

令和6年度作成のガイドラインに公認資格研修の受講・取得を義務付けている。

令和6年度中に、事務局(教育委員会担当者)で、糟屋郡内で開催される公認資格研修を視察し、資格取得までの流れを整理する。

令和7年度から公認資格(スタートコーチ)取得のための研修への参加を必須とし、計画的に受講できるよう年間計画に位置付ける。

スタートコーチ取得研修の内容

- ・テキスト、オンラインによる事前研修
- ・対面研修

指導者研修の参加実績

本年度の参加実績はなし

受講者の声

なし(令和7年度から受講の為)

今後の課題と対応方針

公認資格の取得に係る費用は、町や補助金で負担する。

公認資格取得のための研修受講の申し込みや研修の内容を指導者に周知し、確実に取得できるように計画する。

また、定期的な生徒・保護者等へのアンケートを実施し、指導者の質の保障について確保できるような体制を整えておく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○学校と連携して進めていくため、中学校職員や新入生保護者、在校生保護者等への説明会を実施した。

○今後移行が進んでいった際に、久山町スポーツクラブとの連携も必要になることを見据えて、協議を進めていく。

取組の成果

○保護者への説明会や広報等での周知を行ってきたこともあり、部活動の地域移行（地域展開）に関しては、徐々に理解を得ることができてきた。

○部活動地域移行協議会を主として、久山町スポーツクラブとの協議も定期的に進めており、休日の移行、平日の移行までも含めたあらゆる場面を想定し、対応の見通しについて共通理解を図ることができた。

□新規クラブの立ち上げ（久山スポーツクラブ所属が条件）

一例えば、バドミントン部は久山スポーツクラブ等に受け皿がない。よって、新規クラブの立ち上げを募集又は（現地域クラブ指導者に）提案する。

「受け皿」となっていたクラブ

①謝金について

～R7年度 1,354円/1h ※1日上限2名及び3時間
R8～R9年度 1人あたり年間12万円（1万円/月）
R10年度～ 町からの報酬はなし ※各クラブで運用

部員数	指導者
～40人	2名まで
41～60人	3名まで
61人～	4名まで

②活動補助金

R9年度まで支給（新規クラブ立ち上げ費用、部員数増による備品購入費等）

部員10人未満	10万円/年	10～19人	15万円/年
20～39人	20万円/年	40人以上	25万円/年

③大会申請

当面は、教育委員会と学校で申請（現状、「地域クラブ」として中体連に出場可能）

④施設利用の優先権

あらゆる場面を想定した計画の一部

今後の課題と対応方針

今後、地域移行が平日まで進んでいくことを見据える等して、その場合の運営方針や運営団体、運営する場合の環境整備や事務整理等を段階的に進めていく必要がある。同時に、コーディネータの人材確保を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 地域指導者を確保することができた部(バドミントン部、剣道部)で10月から試行し、課題等を整理する。
- 学校と地域指導者の連携を図ることができる環境を可能な限り整備する。
- 指導者や教員、保護者・生徒等から取組に対する意見をいただき、随時、取組内容の修正を図っていく。

取組の成果

- 休日の活動を実施していく中で、保険の問題に直面した。学校管理下の活動ではないため日本スポーツ振興センターの保険は対象外となることが分かった。そこで、生徒と指導者の休日活動分の保険については、事務局で別途加入することにした(受益者負担はなし)。これは、指導者からの声で明らかになったことである。
- 顧問は、休日部活動には参加しないため、「自分の時間がうまれた」との声が聞かれた。
- これまで関わっていた外部指導者が、地域指導者として指導しているため、生徒に混乱が生まれることもなく、むしろ、専門的指導を受けることができることに肯定的だった。本町のよさの1つであると考えている。

今後の課題と対応方針

- 令和6年度の試行で明らかになった成果と課題を整理し、令和7年度以降の活動に生かしていく。
- 令和7年度までにすべての部活動で「休日の地域指導者による指導」を目指していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

活動の詳細

参加人数	34人	指導者数	3人
属性	バドミントン 剣道		
具体的な内容	○地域指導者を確保することができた部(バドミントン部、剣道部)で10月から試行し、課題等を整理する。 ○学校と地域指導者の連携を図ることができる環境を可能な限り整備する。 ○指導者や教員、保護者・生徒等から取組に対する意見をいただき、随時、取組内容の修正を図っていく。		
子供の声	● 専門的な指導を受けることができる。 ● 地域移行しても、今までお世話になっていた指導者の方なので安心。		
関係者の声	● 指導中の事故やケガが心配だったが、保険に加入していただいたので安心。 ● 生徒たちのがんばりや成長が見えて、やりがいを感じる。 ● 顧問として、休日に出勤する必要がなくなったのでありがたい。		
運営経費	・指導者への謝金 ・大会引率時の旅費 ・講習会参加費用 ・保険掛金		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

当面は、「休日の地域指導者による指導」を推進していくため、受益者負担は考えていない。

右表が計画している予算の概要である。

取組の成果

どこにどのように費用が生じるのか、試行を通して、おおかた整理することができた。

補助金等の活用で、滞りなく運用することができた。

今後の課題と対応方針

活動する部数が増えたときに、予算に対してどのような決算になるのか、今後受益者負担が必要か等を検討していく。

地域クラブに係る経費

- ・指導者への謝金（779千円）
- ・大会引率時の旅費（32千円）
- ・講習会参加費（106千円）
- ・保険掛金（14千円）



収支バランス

- ・指導者への謝金（100,873円）
- ・大会引率時の旅費（0円）
- ・講習会参加費（0円）
- ・保険掛金（5,550円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

当面は「休日の移行」を進めていくため、受益者負担は考えていない。
今後平日の移行まで進めていくことになれば、考える必要がある。
その場合も月3,000～5,000円の範囲で考えている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

本町では、学校部活動をそのまま休日の活動のみ地域移行するため、活動場所は基本、部活動で使用している「学校施設」となる。ガイドラインに優先利用について記載しているため、優先的に施設利用の予約を実施する。

取組の成果

部活動で使用している学校施設が活動場所となるため、生徒も指導者も通常通りの活動ができている。
施設利用の予約についても順調に進んでいる。

【活動場所】

バドミントン部 学校体育館 剣道部 学校体育館

【活動回数】

バドミントン部 15回 剣道部 9回



今後の課題と対応方針

特に大きな問題は生じていないため、これまで通りの運営を行っていく。ただし、他団体と施設利用が重ならないよう事務局の方で調整していく必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和5年度に部活動地域移行協議会を立ち上げ、令和5年度に2回、令和6年度に6回の会議を実施し、久山町として本事業にどのように取り組んでいくかを協議してきた。

1町1中の特徴を生かした、さらには生徒や教員の思いに沿った部活動の地域への移行を目指して取り組んだ。

幸い、中学校では、人口減少を見越してあらかじめ部数を制限してきたことで、部活動の廃部等にはいたっていない。また、町民による外部指導者も充実しており、地域指導者との関わりについても生徒にとって特別感はない。

令和7年度までに「休日を地域指導者による活動に」を目指し、休日の指導が可能な指導者を確保できた部活から、本年度試行的に取り組んだ。

試行をする中で様々な課題が生じ、都度解決策を考え取り組むことができたことは、次年度に向けての大きな収穫であった。

本年度の成果と課題を整理し、令和7年度までの目標達成に向けて引き続き取り組んでいく。

●成果の評価

- 統括コーディネータにどのような業務が必要なのかを概ね整理することができた。主な業務として、休日活動の日程調整、指導者、生徒の保険加入、指導者登録の流れ、指導者の勤怠管理、生徒の出欠管理等である。試行に協力いただいている地域指導者の方々からのご意見で整理することができた内容である。このようなことから、「試行」という過程を踏んだことは有効であった。すべての部活動で動き出していたら大きな混乱を招いたことが想像できる。
- 町のガイドラインや要綱を策定することができた。国や県の方針を踏まえ、活動時間や指導者の資格取得、大会参加等について町としての方針をまとめた。

●今後に向けて

町としての大きな枠組みは整いつつある。現在もっとも課題となっていることは地域指導者の不足である。地域指導者の確保が進めば、さらに取組を加速させることができる。部活動指導員等の制度もあるが、現在の本町の体制では、業務増になり対応できない。よって、コーディネータの人材確保についても同時に進めていく必要があると考えている。地域指導者については、作成した指導者募集のリーフレットをホームページや配付等で周知し、量的充実を図っていきたいと考えている。

2.実証内容と成果②

アンケート結果（生徒・指導者・教員の声）・広報用資料

●参加者の声

中学2年生

今のところこれまでもお世話になっていた方に指導していただけるし、専門的なことを教えてもらえるので、活動が充実しています。

地域指導者

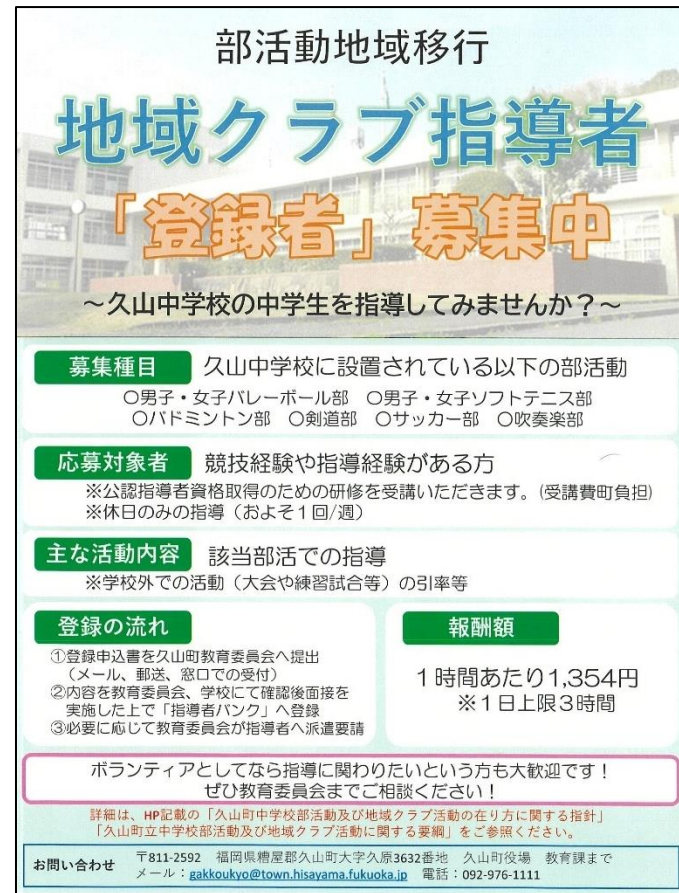
社会教育団体でも活動している生徒・保護者さんがほとんどですので、現在のところ不安等はありません。生徒の成長が嬉しいです。

中学校教員

休日に学校に行くことがなくなったので趣味に時間を使ったり、友人と遊びに行ったりリフレッシュする時間になっています。

●広報用資料

地域指導者募集用のチラシである。申込みがあれば、校長と教育委員会で面談後、採用する。こういった指導者確保のための仕組みを、協議会を通して整理することができた。



部活動地域移行

地域クラブ指導者

「登録者」募集中

～久山中学校の中学生を指導してみませんか？～

募集種目 久山中学校に設置されている以下の部活動
○男子・女子バレーボール部 ○男子・女子ソフトテニス部
○バドミントン部 ○剣道部 ○サッカー部 ○吹奏楽部

応募対象者 競技経験や指導経験がある方
※公認指導者資格取得のための研修を受講いただきます。（受講費町負担）
※休日みの指導（およそ1回/週）

主な活動内容 該当部活での指導
※学校外での活動（大会や練習試合等）の引率等

登録の流れ
①登録申込書を久山町教育委員会へ提出（メール、郵送、窓口での受付）
②内容を教育委員会、学校にて確認後面接を実施した上で「指導者バンク」へ登録
③必要に応じて教育委員会が指導者へ派遣要請

報酬額
1時間あたり1,354円
※1日上限3時間

ボランティアとしてなら指導に関わりたいという方も大歓迎です！
ぜひ教育委員会までご相談ください！

詳細は、HP記載の「久山町中学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する指針」
「久山町立中学校部活動及び地域クラブ活動に関する要綱」をご参照ください。

お問い合わせ 〒811-2592 福岡県糟屋郡久山町大字久原3632番地 久山町役場 教育課まで
メール：gakkoukyo@town.hisayama.fukuoka.jp 電話：092-976-1111

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【 剣 道 部 の 活 動 の 様 子 】



【 バドミントン 部 の 活 動 の 様 子 】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度

協議会設置、
検討開始

町の方針決め
指針等の策定
協議

令和6年度

指針・規約の
策定

生徒、保護者へ
の説明

地域クラブ活動
の試行

令和7年度

地域クラブ活動
の拡大

●ステークホルダー

部活動地域移行協議会、学校、
地域指導者

●経過

協議会を設置し、本町における部活動
地域移行の方向性について協議していく
旨を説明・共有

●実施内容、工夫した点 等

1町1中の利点を生かした、本町ならではの
取組を進めていこうという、大きな方針
を確認することができた。

また、アンケートを実施し、生徒、地域、
教員の思いに沿った内容の充実を図る方
向性を確認することができた。

●経過

令和7年度までに、休日の部活動
を地域へ移行するという目標を設定し、
そのために必要な仕組みづくりを進め
ていくこととした。

●実施にあたって生じた課題

国や県が本事業をどのようなゴール像
をもって進めようとしているのかを読み取
ることや近隣市町の取組の足並みが揃
わないことで、どのように本町として取り
組んでいくかについての協議に時間を要
したこと

●実施内容、工夫した点 等

最終ゴールを目指すのではなく、まず
は本町で設定した令和7年度までの
目標を達成するためにできることを取り
組んでいくという本町の進むべき方向
性を共有して事業を進めた。

●経過

地域指導者を確保することができた部で
休日の移行を「試行」し、成果や課題を
整理することで次年度につなげていくこと
とした。

●実施にあたって生じた課題

登録の流れや学校と地域指導者との活動
方針の共有、保険加入について等、その方
法や費用負担について不確定な部分が生
じた。

●実施内容、工夫した点 等

すべての部で一斉に移行するのではなく、
2つの部で試行したことで、上記課題を整
理し、都度解決策を考え実施することがで
きた。整理したことをもとに次年度への取組
に生かしていきたいと考えている。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	町	学校	地域指導者
令和6年度	・部活動地域移行協議会の実施 ・指針や規約の策定 ・地域移行の「試行」 ・成果、課題の整理	・外部指導者へのヒアリング ・教員、生徒への説明 ・保護者説明会の実施	・「試行」段階の課題整理
令和7年度	・指導者の募集 ・公認資格研修受講手続き ・コーディネータ募集 ・成果、課題の整理	・保護者説明会の実施 ・生徒、保護者アンケートの実施	・生徒への指導 ・公認資格の取得 ・指導方針の共有
令和8年度以降	令和7年度までに休日の移行完了 令和8年度以降は休日移行の維持		

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福岡県 桂川町

自治体名：福岡県 桂川町

担当課名：教育委員会 学校教育課

電話番号：0948-65-1149

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積20.14 km ²
人口	12,734 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	303 人
部活動数	運動部10 部活 文化部2 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

○現状

現在、本町の運動部活動は、女子ソフトボール部、ソフトテニス部、サッカー部、陸上部、野球部、卓球部、柔道部、剣道部、バレーボール部、バスケットボール部の10の部活が活動している。

運動部に所属する生徒は合計107名で全校生徒の約3分の1程度。少子化やクラブチームに所属する生徒の増加により、サッカー部は他の中学校と合同チームによる活動を行っている。昨今の出生者数を見ると団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。

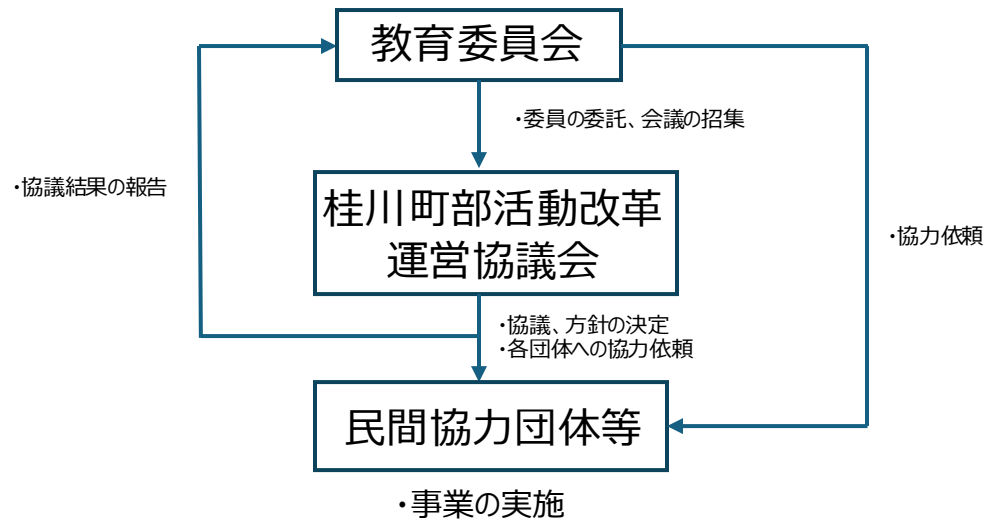
本町では、今後少子化の影響で、学校部活動の持続、継続が不可能になるという見通しを持ち、生徒がこれからもスポーツ活動に親しむことができる環境の整備し、持続可能な部活動を目指した体制づくりを目標とし地域移行を進める。

この地域展開の推進にあたっては学校の教職員以外の地域内の指導者の掘り起こし、確保も同時に進めていかなければならない。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・学校教育課・・・統括と事業の運営

年間の事業スケジュール

令和6年12月

- ・第1回桂川町部活動改革運営協議会 開催
- ・指導者の確保
- ・中学校職員の希望者に対する兼職兼業許可証の発行

令和7年1月

- ・生徒・保護者への説明会
- ・事業運用開始

令和7年2月～3月

- ・事業継続と次年度の方針についての検討

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（2 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	11 人	全体の運営スタッフ数	11 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
孜々道場	民間団体	柔道	週2回	8：30 ～12：30	1年生 2名 2年生 5名	1月～3月	桂川町立武道場	5 人	5 人	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
桂川スポーツ少年団	総合型地域スポーツクラブ	サッカー	週2回	8：30 ～12：30	1年生 2名 2年生 2名	1月～3月	桂川町内の各グラウンド	6 人	6 人	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- なし

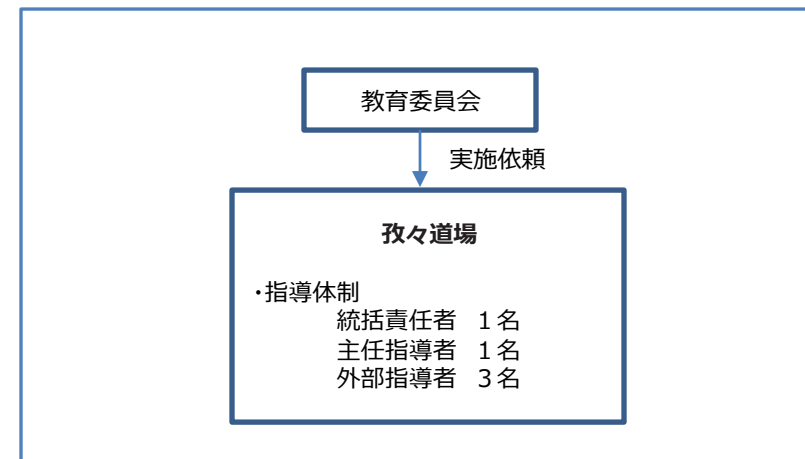
2.実証内容と成果

主な取組例

● 孜々道場 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	柔道
運営団体名	孜々道場
期間と日数	1月4日～3月31日 月4回程度
指導者の主な属性	中学校教員、社会人
活動場所	桂川町立 武道場
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者 1名
役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う
- 主任指導者 1名
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う
- 運営補助者 3名
役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

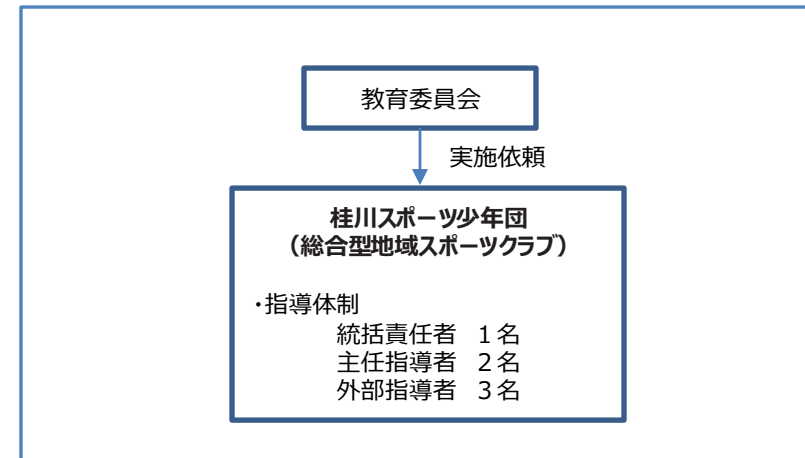
2.実証内容と成果

主な取組例

●桂川スポーツ少年団（総合型地域スポーツクラブ） 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	桂川スポーツ少年団（総合型地域スポーツクラブ）
期間と日数	1月4日～3月31日 月4回程度
指導者の主な属性	小学校校長、中学校教員、社会人
活動場所	桂川町内の各グラウンド
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者 1名
役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う
- 主任指導者 2名
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う
- 運営補助者 3名
役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○桂川町部活動改革運営協議会を設置し関係各位から広く意見を集め事業の展開に反映する。

○広域的な活動を行う統括コーディネーターを1名配置し、関係団体・市区町村との連絡調整・指導助言等を行う。

取組の成果

桂川町部活動改革運営協議会において、社会情勢の現状を踏まえた学校部活動の地域展開について、国の考えと方針を報告し、桂川町での取り組みの方向性について検討を行った。

そのうえで、地域展開に臨み、柔道部については、現在の活動内容が本事業に馴染みやすいことから、活動場所など大幅に変更することはしなかったため大きな混乱もなく地域展開できた。

サッカー部については総合型地域スポーツクラブとして休日は活動することとなり、活動場所については学校以外の場所となるが、このことにより従来は休日に他市の中学校に出向いて合同練習を行っていたが、町内で部活動が行えるようになった。

また、休日の指導者については教職員に兼職兼業の許可を発行することにより地域指導者としての立場を付与することで、指導体制についても、生徒が不安と混乱を来さないよう配慮することとした。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

- ・随時、各クラブを巡回し課題等のヒアリング・助言等を実施
- ・協議会の調整等を実施し、関係団体との連携に努めた
- ・学校、参加者、指導者への連絡調整を実施

今後の課題と対応方針

事業の活動内容と教職員の負担軽減の関係を精査、分析し、事業の有効な運用方法を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

協議会で指導者の質・講習会の参加・公認資格の必要性等を協議し、地域クラブの指導者が平準化するよう取り決める。関係団体から指導者情報の提供、移行等の連携を行うとともに、学校、体育協会等の関係者との連携を図りながら、指導者の確保に努める。

登録者属性

・教職員 6名
・社会人 5名
(全員指導者ライセンス所持者)

現状としてはこの体制で支障なく活動できている。

種目

・柔道
・サッカー
・バスケットボール …など

資格有無

資格の有無については現時点では不問

取組の成果

中学校教職員に対し兼職兼業の許可を発出することにより指導者の確保を行った。また、日頃から指導を頂いている方々に本事業の指導者を担っていただくこととした。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

関係団体から指導者情報の提供、意向等の連携を行うとともに、学校、体育協会等の関係者との連携を図りながら、指導者の確保に努める。

取組の成果

本年度の指導者の体制については、部活動顧問（教職員）が加盟しており生徒の心理的安全面に配慮した形で臨んでいる。また、孜々道場、総合型地域スポーツクラブの指導者も生徒が小学生のころから親しんでいるため、スムーズに地域展開ができている。

現在の部活動の規模であれば、現状の体制で十分に対応可能と考えている。

また、今後、地域展開を推進した結果、部活動生徒が増加した場合に新たな指導者を確保し指導体制の強化を図る必要があるため、桂川町部活動改革運営協議会において、新たな指導者の発掘、育成についての取組の必要性が議論されたが具体的な方策までは示されなかった。

バス等の運行実績

なし

バス等の運行経費・収入

なし

今後の課題と対応方針

今年度と同様の活動を継続し、関係団体との連携を強化し、ネットワークを活用しながら、新たな指導者の発掘に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

・部活動の地域移行や地域クラブでの活動が浸透・定着していくために、協議会等で課題の解決、共有を目指した。

課題

1. 教職員の事業に対する理解と協力の獲得
2. 保護者の事業に対する理解と協力の獲得

上記の課題については、説明会を複数行うことで課題の解消を目指す。

活動の詳細

参加人数	11 人	指導者数	11 人
属性	致々道場・桂川スポーツ少年団（総合型地域スポーツクラブ）		
具体的な内容	休日の部活動		
子供の声	● 活動の幅が広がって、やりがいがあって、楽しい。 ● 今までは人数が少なく、隣の市まで練習に行っていたが、桂川町で練習ができるようになって嬉しい。		
関係者の声	● 中学生と小学生が合同で練習することにより、中学生が小学生の指導や面倒を見る機会ができ、競技の技術の向上だけでなく、思いやりなどの人格の育成も図ることができる。 ● 様々な年齢層や体格の異なる児童・生徒が活動することにより、活動内容の幅も増え、小学校から中学校への切れ目ない活動の継続が期待できる。 ● スポーツに親しむ楽しさを、この場を通して経験し、ここでの原体験を胸に部活動に限らず、様々な場で更なる経験を積み、将来的にはこの事業の指導者として携わる人材育成の場としても期待できる。		
運営経費	現時点では、無償で受け入れ		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

○柔道

多世代での交流により様々な年齢の児童生徒が練習に取り組むことができた。また、中学生が小学生の指導や面倒を見る機会が出来、競技の技術の向上だけでなく、思いやりなどの人格の育成も図ることができた。



○サッカー

参加者数の多い総合型地域スポーツクラブに参加することで、従前は休日に他市の中学校に出向いて合同練習を行っていたが、町内で部活動が行えるようになった。



今後の課題と対応方針

本事業については内容の充実も必要であるが、現状から活動が縮小しないよう指導者の人材発掘などを行い、持続可能な活動の構築を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・生徒が通い慣れた学校であるため利用がしやすい。
 - ・学校施設（グラウンド）を活用することで無料で利用できる。
 - ・従来より総合型地域スポーツクラブが学校施設（グラウンド）を活用しているため利用に関するノウハウがすでにある。
- 以上の観点から学校施設を活用する。

取組の成果

今までどおりの活動が問題なく行うことができています。

今後の課題と対応方針

今後も学校施設を活用する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

関係団体と連携し、指導者リストを作成するとともに、協議会で指導者の質・講習会の参加・公認資格の必要性等を協議し、地域クラブの指導者が平準化するよう取り決めを行う。関係団体から指導者情報の提供、移行等の連携を行うとともに、学校、体育協会等の関係者との連携を図りながら、指導者の確保に努める。

取組の成果（イ）

中学校講師に対し兼職兼業の許可を発出することにより指導者の確保を行った。また、本事業の受け入れ先で指導を頂いている方々に本事業の指導者を担っていただくこととした。

取組事項（ウ）

関係団体から指導者情報の提供、意向等の連携を行うとともに、学校、体育協会等の関係者との連携を図りながら、指導者の確保に努める。

取組の成果（ウ）

運用開始が令和7年1月からであり成果については現在検証中。

今後の課題と対応方針

今年度と同様の活動を継続し、関係団体との連携を強化し、ネットワークを活用しながら、指導者の発掘に努める。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度については、事業を始めることに注力した。桂川町部活動改革運営協議会の設置にあたっては、事前に関係団体の代表者それぞれに綿密な趣旨説明等を行うことで、大きな問題もなく設置することができた。

協議会は、スポーツ活動と文化活動の両方を兼ねた協議会として設置し、地域展開を行う種目についての報告とその理由、受け入れ先の詳細についての説明を行い事業の方針、新規指導者の発掘、育成、実施種目の充実の必要性などの協議を行った。

本町ですでに、社会的資源（孜々道場、総合型地域スポーツクラブ）を有していたため、比較的スムーズな地域展開ができたものと考えている。

●成果の評価

協議会の設立、生徒、保護者、教員に対する説明、指導者の確保など、受け入れ先の各団体との連携を密に行うことで、事業の開始については大幅に遅れたが、実施することができた。

また、受益者負担についても当初の計画通り徴収することなく事業の展開ができています。

●今後に向けて

今年度に始動した本事業について縮小させないことを念頭に置き、部活動生徒の増員を目指し、地域部活動ならではのイベントなどを行う。

このような地域密着型の活動を展開することで、本事業の地域における認知度を高め、さらなる地域展開につなげていきたい。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【組み手】



【小学生との練習】



【小学生との練習】



【指導の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

検討開始

受け皿団体や指導者の選定
学校現場との調整

協議会設置

令和7年

生徒、保護者への説明

地域クラブ活動の開始

ステークホルダー

学校、桂川町体育協会、桂川町スポーツ推進委員会、孜々道場
総合型地域スポーツクラブ、桂川町教育委員会

経過

令和6年12月に部活動改革推進協議会を設置し部活動の地域移行について協議を行い、事業実施に向けた合意形成を行う。

孜々道場と総合型地域スポーツクラブの2つの団体を運営団体とした新たな地域クラブ体制を令和7年までに構築する方針を決定。また、本町教育委員会内に統括コーディネーターを設置し、指導者、行政等の連絡調整を行った。

実施内容

令和7年1月から、地域クラブ活動への参加を開始した。地域クラブ活動は2クラブを実施。

実施にあたって生じた課題

運用開始が令和7年1月からであり、課題については現在検証中。

今後の展開

今年度に始動した本事業について縮小させないことを念頭に置き、事業の充実、拡大を目標に様々な方策を検討していく。